

いの流水俳壇

「当季雑詠」

ライダーと爆音吞めり新樹山

友草 水月選
竹崎 光子

(評) 晴れあがった碧い空、十数台のライダーが爆音を轟かせながら突っ走る様子は壯観である。最近若者だけでなく中高齢者も女性も結構いる。

掲句は山間の道路、周りの山々は緑の木々に包まれ、ライダーとけたたましい爆音が新樹の中に吞みこまれてしまったというのである。

その壯観さと美しい緑の自然とライダーとの調和を良く捉え句にしたと思います。

季語としては新樹、新樹光新緑などがある。

○みはるかす塔も新樹も雨の中

八幡城太郎

葉桜になりて風情のなお増せり

小野川町子

(評) 桜は惜しまれて花が散り若葉が出始めたころの葉は少し艶があつて美しいものである。作者はその様子を風情と表現している。風情とは、趣や、味わいのこと。その葉桜の趣や味わいが一層増してきたと詠んでいる。自然の移ろいを観察した佳句である。季語としては葉桜の他に柿若葉、椎若葉、樟若葉などがあり、いずれも光り輝く若葉の美しさである。

○葉桜の影ひろがり来深まり来

星野 立子

黒髪の五月の風に匂い立つ

竹崎たかひろ

(評) 心も体も快い五月、空気が乾燥し風も明るく五月、風が吹くとききれいな黒髪が風の流れとともに匂いつつと詠んでいる。

黒髪的美しさと五月の明るさの対比として下五の「匂い立つ」がよく効いている。最近ニユーヘアスタイルとかでせつ

かくの黒髪を茶髪に染めるのは残念と思うのは歳のせいであろうか。なお作者は川柳の大家であり、川柳界でも活躍されている。

○子の髪の風に流るる五月来ぬ

大野 林火

行くとくろ無くて見ている蝸牛

問 浩太

(評) 蝸牛がゆつくりと這い上がつて頂点まで登りつめるともう行き先がない。頭を角を左右に振つて行き先を探している様子や蝸牛の生態を良く捉え簡明な句である。俳句は省略の文学とも言われる。

蝸牛の頭には屈伸する二対の角があり長い方の先端に目がある。ただその目は明暗を判別するだけで物を見ることはできないそうである。

蝸牛は童謡にもあり、子どもころの愛玩小動物でもあったが、最近あまり見かけなくなつた。大気汚染か農業関係か淋しいことである。

○昏れんとし幹の途中の蝸牛

桂 信子

宵闇の蛙は宇宙なりしかな
朝夕に足す一枚の衣更え
川村 博子

山の風みんなのみ込む鯉のぼり
五月吹く風望郷の詩となる
片岡 包女

口重き子にある大器武者人形
今年こそ捨てる覚悟の更衣
大川 節弥

異常なし医師の笑顔や風薫る
包丁に砥石の匂い夏の朝
伊藤 萩甫

初夏や公文書みな黒インク
銘刀の反りし拔身や青葉光
森岡 照月

駄筆 一言 水月
植田 紀子

俳句を詠む(作る)ことの基本は忠実に自然を「見る、よく見る、深く観る」にあると山口誓子は言っています。見たままでは絵のデッサンだけになる、自然を見、体験し、そこから生まれた感動を17文字にまとめて表現しなさいということだろうと思います。(続く)

◆選評者交代のご挨拶
友草 良雄

本号(7月)から流水俳壇の選評を問浩太氏の後を受けて担当することになりました。歳だけはとっています。が俳句歴は20年余りでもまだまだ勉強は足りません。一歩でも二歩でも前進したいと思っています。町文化の灯を消さないためにもどうか今後とも「層のご指導」とご協力をよろしくお願いします。

投句先

社会教育課

いの町3597
画 89312012

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

今月のごども川柳

ポイすては あなたの心 よこしてる

伊野小 3年 塩田 ふうか

(評) 何げない暮らしの中でのポイすて、清らかな子どもに反省させられる大人たちがいる。心まで汚さないよう気を付けましょう。

冬が去り ほのかに春の 風がふく

川内小 6年 伊藤 葉菜

(評) 厳しい冬が終わりそして春。訪れる春を「ほのかに」と詠む小学6年生の感性がとてもすてきです。ほのほのとした春の季節がうれしく伝わってきます。

春が来た さくらちつても 春は春

長沢小 3年 山崎 光樹

(評) 春はさくらと花の咲くのが待ち遠しい。せうかた咲いたさくらも雨や風に散つてしまふけど、あたたかく春は春です。季節の移り変わりをしっかりと見つけた小学3年生がすてきです。

冬げしき ここえながらも 見たくなる

川内小 4年 高橋 奈甫

友だちと けんかしたつて 友だちだ

伊野小 4年 さわ村 ゆきの

春になり どうみんどうぶつ 目をさます

川内小 2年 森 しおり

あいさつは いきもかえりも 気もちいい

川内小 3年 千田 み空

ばあちゃんち いとこといっぱい 遊んだよ

長沢小 4年 麻田 晃太郎

かみさまは いつもみんなを よくみてる

川内小 2年 さかもと ここあ

春すぎて かなしい思いも すぎていく

川内小 6年 古谷 きらり

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは7月16日(火)です。たくさんの方の皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通してお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。